

## ロータリー月例報告 Vol.11

留学先：リバプール熱帯医学校 (LSTM: Liverpool School of Tropical Medicine)

8月に入り日本は猛暑が続いていることと思いますが、リバプールは日中 20 度前後で、夜には上着が必要なほど冷え込みます。ロンドンは暑く、スコットランドは寒いなか、その中間に位置する北イングランのリバプールは、夏は大変過ごしやすく勉強に最適です。

私が修士論文で使用している研究手法は統計学ソフトを使用したデータ解析です。南スーダンの障がい者がどれだけ医療サービスを利用したか、また利用できなかった際、障壁となった出来事は何であったか、集められたデータを解析し、数値を導き出します。今まで統計学にほとんど触れてこなかった私が、幼いころから理数系の科目がとても苦手だった私が、まさか英語で統計学を学び、修士論文の手法に使用することになるなんて、全く予想していませんでした。統計学やデータ解析ソフトの使い方をよく理解するために多くの書籍を読み、解析しては解析し直しの繰り返しで毎日深夜まで解析する日々が続きました。そんな時間と労力をかけて解析し終わったデータに間違いを見つけて、始めからまた解析し直すことも何度かあり、精神的にも大変な時期がありました。

私たち学生にはスーパーバイザーと呼ばれる論文執筆をサポートしてくれる教授が振り当てられます。手取り足取り教えてくれる教授もいれば、私の担当教授は学生主体でほとんどアドバイスを

をくれることはないのです、自力で何とかするしかありません。サポートが手厚いスーパーバイザーが担当の学生を羨ましく思ったこともあります。今では自分で調べ、問題解決をする能力に磨きがかかりました。苦勞した分、多くの知識と経験を得ることができ、次に統計学的研究をする際は自分一人でもできるという大きな自信となりました。

先日日帰りで北イングランドのダラムに足を運びました。ハリーポッターの世界観を味わうことができ、良い息抜きとなりました。

修士論文完成後は、世界学会での発表を考えており、少しも手を抜くことなく、後悔することないよう残り一か月を頑張りぬきたいと思います。



写真 1: ダラム大聖堂